

ぎんれい75



巻頭言

地球温暖化を止めましょう

古川 進一

9月の台風15号・10月の台風19号と連続して、大きな被害を残して関東地方を通過していきました。

スウェーデンの16歳の少女が国際会議で、このまま地球温暖化が進むと取り返しのつかない状態になってしまうと、涙ながらに訴えていました。私も同感です。

地球温暖化が進むと、日本列島の前面にある太平洋の海水温が異常に上がって、スーパー台風が発生しやすくなるのです。

昨年は西日本で、今年も九州地方で、線状降水帯による大雨が甚大な被害を発生させています。

最近大雨が降ると、以前には余り使用しなかった「線状降水帯」という言葉を見かけるようになりましたが、これも温暖化の影響なのでしょう。

私達の住む銚子地方は他から見るととても涼しく、以前は夏でも30℃を越すことはめったにありませんでした。しかし、最近は毎日の様に猛暑日が続きます。

一例ですが、数十年前は各家庭にエアコンが設置されているのが珍しかったのですが、現在はほとんどの家にあります。エアコンを作動させると、電力の使用と室外機から出る熱風が、温暖化の原因にもなります。人間、一度快適な生活をしてしまうと元に戻すことがなかなか出来ないのも現実ですが、各自が少しでも使用時間を短縮したいものです。

経済活動が続けるためには電力は必要不可欠です。温暖化を防ぐためには、発電資源を化石燃料から風力や太陽光発電に転換しなくてはなりません。

私達が愛する山にも温暖化の影響が見られます。温度上昇により、積雪量の変化や雪解けの早さによる植生の変化が見られます。又、猿や鹿、その他の動物も以前より標高の高い処迄登ってくる様になり、雷鳥は襲われて減少し、草食獣による高山植物の食い荒らしも目立ってきました。

一日も早く地球温暖化を止めましょう。

目 次



○ 巻頭言	古川進一	1
○ 山行報告		
奥日光（千手ヶ浜）	宮崎睦	4
キノコ山行（明神ヶ岳）	佐久間美智子	6
若穂太郎山（忘年山行）	高橋恵美子	7
スッカン沢	宮崎睦	8
イエローフォール	高橋忠	10
スキー合宿（水上宝台樹スキー場）	高橋充夫	12
栗駒山（山スキー）	遠藤博昭	14
長井葉山 山菜採り	金井秀明	16
船形山（山菜山行）	佐藤實	17
栗子・滑谷沢左俣	遠藤博昭	19
夏山合宿 荒雄岳・薬菜山	内田章子	21
小菅川本谷	鈴木喜久枝	23
白水沢左俣	金井秀明	24
白川 釣り山行	内田章子	25
御嶽山	高橋恵美子	27
秋田 太平山	高橋忠	30



○ Wakachiku Climbing Club (WCC)	佐藤 健一	32
○ 筑波山 思い出と今	小山田 泰幸	34
○ 大きなスイカの思い出	古川 進一	36
○ 地 図	金井 秀明	38
○ 表紙のことば	金井 秀明	39
○ 新人紹介		39
○ 令和元年度役員		39
○ ふみあと		40
○ 編集後記		42



奥日光（千手ヶ浜）

宮崎 睦

日 程 平成30年10月7日～8日

パーティ 宮崎

7月に右股関節を人工関節にする手術をし、医師からは約3ヶ月経過すれば、運動制限は無いと言われており、痛みは多少あるが術後の経過も良さそうなので、どの位歩けるかも未知数であり、会の山行にいきなり参加するのはハードルが高いため、単独ならば疲れた時は他のメンバーに迷惑をかけずに、回復するまで休めるので、単独で簡単なルート歩いてみることにしました

7日

自宅を16時30分頃に出発し、つくば経由で宇都宮ICまで行き日光有料道路に乗り、赤沼茶屋の駐車場には21時頃に到着した。

車中泊の車両が50台位おり、3連休の中日で紅葉シーズンの始まりですので、小田代ヶ原の白樺の写真を撮りに来る者が多いのであろうか。

8日

駐車場は、5時過ぎには満車となってしまったので、前泊で来たのが正解でした。ちなみに、この駐車場から小田代ヶ原へのバスは日の出前の4時30分に始発が出ます。

赤沼茶屋の公衆トイレの脇から戦場ヶ原に入り、竜頭の滝の川沿いに下っていくと、紅葉は始まっており、川沿いは撮影スポットが多く有ります。

竜頭ノ滝上流の橋の所から、カメラマンや観光客が地獄茶屋（竜頭ノ滝の下）の所までは早朝でも多数いました。

竜頭ノ滝下にある無料駐車場方向に進み、中禅寺湖の湖畔にある遊歩道を、千手ヶ浜



まで所々細かいアップダウンが有るルートを、3ヶ月ぶりにザックを背負っての歩きです。

上り下りが有る所には、木製階段が設けられ、歩道も整備されているので、歩きやすいのですが、湖面からの傾斜は反対側の半月山方面方は緩やかですが、こちら側は急傾斜で、そこにルートが有るので、間違って転落すると湖に落ちてしまいます。

以前に比べて歩くスピードは遅く、後から来た単独者2名に追い越されました。他には千手ヶ浜の近くで、反対方向から来た3名と会ったのみで、静かな登山道です。

千手ヶ浜も人は少なく、6月の九輪草の開花の時は大勢の人でにぎわうのがうその様です。

湖畔の紅葉は、10日位先の様に思えた。お茶を飲み休憩してから、西ノ湖に向かうが、平坦な道で多くの人とすれ違い、西ノ湖は水量が多く濁っていました。



西ノ湖入口バス停まで行く途中では、疲れて小休止しなければならず、足が持てば、小田代ヶ原までバスで行き、そこから戦場ヶ原を歩いて赤沼茶屋まで戻ろうと、当初の計画では予定していたが、やはり無理のため、そのままバスで赤沼茶屋まで戻りました。

やはり、約半年間のブランクが有ってからの歩きは、歩行速度も遅く、疲れてしまい、以前の状態を取り戻すためには、マイペースでのリハビリ山行が必要だと感じました。

8日の行程

赤沼茶屋	6 : 15
地獄茶屋 (竜頭の滝下)	7 : 10
休息	7 : 35 ~ 7 : 45
赤岩	8 : 00
休息	8 : 35 ~ 8 : 45
熊窪 (高山分岐)	8 : 55
千手ヶ浜	9 : 15 ~ 9 : 45
西ノ湖	10 : 30
西ノ湖入口バス停	10 : 55

キノコ山行(明神ヶ岳)

佐久間 美智子

日 程 平成30年10月26日～28日

パーティ 宮崎、遠藤、佐藤、高橋(忠)、内田、佐久間

毎年いつも行きたいと思っていたキノコ山行に、今回ようやく参加することができた。昨年も明神ヶ岳、今年も明神ヶ岳と言うことは…ここはキノコが採れる山？！

26日 会津坂下の道の駅あいづ湯川で、小雨の中テント、車中泊。

27日 登山口に“熊出没注意”の看板。やっぱりいるの～？この頃どこの山に行っても見かけるこの注意喚起。熊を見かけたら、気づかれてしまったら、どうしよう。考えるだけでこわい。そういうことがおきませんように。

7:55 雨模様の中出発。ほどなくムキタケ発見。熊のことを忘れて夢中で採る。みんな笑顔で採る。袋に入れる。雨もやんできた。キノコを見つけて活気づいたり、色づきはじめて木々をながめたりと楽しい時間。

10:55 伊佐須見神社奥の院着。山頂へは急勾配で滑りやすいということでここから引き返すことにする。狭間峠にデポしたキノコを回収し、下山を続ける。その途中なんと大量のナメコ発見。約5時間半の山行。終わってみれば大収穫です。

宿泊場所の奥会津昭和の森キャンプ場はテント、バンガロー、ケビンの施設があり、私達の泊まったケビンハウスは流し台、テラス、トイレが付いている。(大量のカメムシもついていた)

キャンプ場に着くとさっそくキノコの皮をむいたり、ゆでたりの下準備。みんな慣れたもので仕事が早い。その後、昭和温泉しらかば荘で入浴。

夕食はムキタケの鍋、バター炒め、ナメコおろし。そしてミズとコンビーフ炒めと豪華な食事。更に10月に誕生日をむかえた3人のお祝いでクラッカーをならし、ケーキを食べて、お腹も気持ちも満腹、満足。

28日 快晴。キャンプ場のみはらし広場へ散歩。紅葉がきれいだ。山岳会に入ってから毎年紅葉を見ることができて感激。今年もありがとう。

帰りはリカちゃんキャッスル、あぶくま洞を見学。観光あり、ムキタケのお土産ありととてもぜいたくなキノコ山行でした。お世話になりました。

余談

ムキタケの収穫の様子を見た家族のひとり

“キノコって木にはえるの？”

若穂太郎山（忘年山行）

高橋恵美子

日 程 平成30年11月28日～30日

パーティ 佐藤、高橋(忠)、遠藤、宮崎、内田、佐久間、高橋(恵)

天王山登山口駐車場には、平日とあつてか他の車は無い。頂上まで3598M。案内看板の前から遊歩道のような道を15分程歩くと日露戦争の記念碑と鎮魂碑が立つ功霊殿に着く。階段を上ると善光寺平が一望のもと、眺めが良い。少し上にあるあずまやを通り過ぎると、露岩交じりの狭い尾根を行く登山道になる

この尾根の真下を上信越自動車道が貫いている。足元のトンネルに吸い込まれていく車、吐き出されていく車がよく見える。小さなアップダウンの道が続き、所々両手を使わなければならないような岩場も出てきて、ハイキングコースにしてはなかなかきつい。

展望が良い大きな岩の脇を通りしばらく行くと左から蓮台寺からの道が合流する。平らな城ノ峰城址跡を抜け、左にだるま岩が出て来ると間もなく甕岩。名前の付いた大きな岩が沢山あるが、その中でも甕岩が一番大きく20人位で乗ってもまだ余裕があるように思われる。このコース随一のビューポイント。岩の上に乗ると素晴らしい眺めで、千曲川の向こうに広々とした長野の市街地、エムウェーブ、北陸新幹線、その奥に北信の山々。そして上信越道が緩いカーブを描いて縦断している様が見える。

ここまで意外に時間がかかってしまった。頂上まではまだ時間がかかりそう。ここから引き返そうかとの案も出たが、先に進む事になる。

下の方では残っていた紅葉も、落葉してしまっていて何となく寂しい。70分程歩くと小広い頂上に到着。思ったより短い時間で着くことが出来た。大休止。

昼食後、北尾根口蓮台寺に向けて下山開始。笹の中に付けられた登山道はロープの張られた急勾配の道。滑らないよう気を使う。70分程歩いて北尾根口の林道に降り立つ。林道を右に折れ、しばらく下って行くとリンゴ畑の中の舗装された道に出るが、駐車場までは、まだまだ遠い。途中の農家で調達したリンゴをかじりながら、舗装道路を延々と歩いて15:35分、やっと到着。暗くならない内に宿に入ることが出来ました。なかなかに登り応えがあり、眺めも良く、変化に富んだ面白い山でした。

コースタイム

天王山登山口8:32 — 功霊殿8:44 — 甕岩10:33 —

頂上11:46/12:40 — 北尾根口13:53 — 登山口15:35

スッカン沢

宮崎 睦

日 程 平成31年1月24日

パーティ 遠藤、高橋(忠)、内田、佐久間、宮崎

小見川役場に5時30分に集合し、銚田ICから高速に乗り宇都宮上三川ICで降りてR119号線で宇都宮ICを目指す。少し混んでいたが順調に宇都宮ICまで行き再び高速に乗り、上河内PAで朝食を食べるが、食べてからものんびりとしていたので予定よりも遅くなってしまいました。

矢板ICで降り途中でコンビニに寄ってから、山の駅「たかはら」に到着すると、矢板市内は晴れていましたが、山の駅「たかはら」は小雪が舞っており、風もかなり強くなっていました。

山の駅「たかはら」は冬季は、金曜日から日曜日までが営業日で、今日は木曜日のため休日、駐車場には先行者の車が2台駐車していました。

車外に出ると寒いが、準備をして出発すると、積雪は笹の葉が見えるので30センチ位でした。。

トレースも有るのでスノーシューは置いて行き、アイゼンとヘルメットを携行し、ツボ足で歩きますが、今回のルートは普通の登山と逆で、往路は下り、復路は上りです。

滑ることも無く快調に下りながら^{らいてい}雷霆ノ滝に到着する。本流は凍っておらず流れていた



が、脇の方は凍っています。

小休止してから^{ほうこうへきれき}咆哮霹靂ノ滝に向かうと、ここも完全には凍結はしておらず、脇の氷

の発達も少ない。

来た道を少し引き返し、雄飛の滝へ向かうルートは、高度の有るトラバースルートになるため、安全を期しアイゼンを装着していると、雄飛の滝から引き返してきたグループとすれ違う。

柱状節理の岩場が有る所の木製階段は1箇所板がなくなっていますが、問題なく下ることができ、柱状節理の部分は氷が発達し、見事な氷景が見られました。



下部には寒さの緩んだ時に、落下した氷柱が有りましたが、今日は寒いので氷柱が落下する危険性も無いため、ヘルメットの装着はしませんでした。

雄飛の滝付近はスケールの大きな見事な氷柱が見られ、雄飛の滝は水量が多い

ため、完全には凍結してはいませんでした。

お茶タイムと、記念写真を撮ってから帰路となりましたが、山の駅までの行程は、疲れている時に、登りとなるので、到着までの時間が永く感じられました。



矢板の城の湯

で入浴すると、大きな浴槽の温泉で、快適に入浴することができ、上河内SAで食事を取り、小見川には久しぶりに22時過ぎの到着となりました。

スッカン沢は2年前に沢登りで行きましたが、夏とは全く違った景色になり、氷瀑のスケールは雲竜溪谷より少し小型ですが、登山者も多くなく良いルートだと思います。

10:10山の駅「たかはら」 — 11:05雷霆ノ滝 —

11:50咆哮霹靂ノ滝 — 12:50~13:55雄飛ノ滝 —

16:30山の駅「たかはら」

イエローフォール

高橋 忠

日 程 平成31年2月8日～9日

パーティ 宮崎、遠藤、内田、佐久間、高橋(忠)

幻の氷瀑、イエローフォール。裏磐梯の爆裂火口に出来る凍り付いた黄色い巨大氷瀑。しかし夏には滝はなく、噴火口壁から染み出た水が冬になり少しずつ凍り、大きな氷の滝「イエローフォール」が形成される。この冬にしか見られない巨大モンスターを見に行くことになった。宮崎さんはもう何度となく行っているようだ。昨年までは、スノーシュー山行には、水野さんと私の2人だけが山スキーで参加していたが、水野さんが退会してしまい、スノーシューを持っていないのは私だけ。山スキーをする人も減ってきて、これから冬の山行はスノーシューがメインになるのかなと思い、思い切って今回の山行に合わせて、スノーシューを購入した。なので、今回私は、スノーシューデビューである。

8日朝、5時に小見川を出発して、阿武隈高原SAで朝ご飯定食。今までコンビニでおにぎりを買って食べていたのに、こんなにのんびりと朝食を食べていると、これから山行と言うより旅行に行く気分だ。

風が強く小雪がばらついていたので、二日目に予定していた五色沼散策に切り替えることにした。予報では明日の方が風も弱まるようなので、イエローフォールは明日ということに。8:54 裏磐梯ビジター駐車場到着。9:30 檜原湖へと向かう自然探勝路を出発。全く人影がないが、トレースはしっかりと付いている。雪景色を眺めながら、雪の中を歩いて行く。私は、



スノーシューを履いて歩くのが初めてなので、歩き方がごちなく、とても疲れる。毘沙門沼、弁天沼、るり沼、柳沼などを経て、12:04 檜原湖の裏磐梯物産館に到着。

物産館の駐車場に車を停めて沼の雪景色を撮りに来ているカメラマン達がチラホラいた。我々は、ここでトイレ休憩を取り、るり沼まで引き返してから、お昼休憩を取ることにした。ここで、内田さんからの差入れのプリンとクラッカーを鳴らして、一足早い遠藤さんの誕生日を祝う。休憩後、来た道を引き

返して、ビジタセンターへ向かう。14:21に到着。

道の駅「裏磐梯」に立ち寄り、宿泊先の磐梯檜原湖湖畔ホテルに向かう。ここは、2015年の秋のバス山行で宿泊した場所だ。部屋の目の前に檜原湖と磐梯山が一望、とても景色の良い場所である。美味しい料理を食べ、更に部屋での二次会で盛り上がり、夜が更けて行く。

9日 6:30頃目が醒め、窓の外を見ると、もうワカサギ釣りをする人たちが続々と檜原湖へ降りていく。朝食を済ませ、8:40 宿を出発。9:17 裏磐梯スキー場に着いた。風は収まったが、昨日に続いて小雪がぱらついている曇空だ。リフト2本を乗り継ぎ、ゲレンデトップへ。ここで、宮崎さん、遠藤さん、高橋の3人は、スキーをデポし、スノーシューに履き替えて、10:00 ゲレンデトップから、イエローフォールへと向かう。10:13 銅沼あかぬまの入口に到着し、ここから凍った沼の上を進む。氷が割れないかとやや不安になりながらも誰もいない広々とした沼のど真ん中を快適に進んでいく。前方の山の中腹から噴煙が上がっていて、硫黄の臭いがする。



沼の終わりからは、緩い傾斜を登って行く。途中、スノーシューツアーのパーティーと何組かすれ違い、11:10 イエローフォールに到着。大きなかき氷にレモンの蜜を掛けたような氷の塊（滝）だ。宮崎さんの話によると、例年より小さいようだ。イエローフォールを眺めながら、昼食をとり、来た道を辿って、12:36 ゲレンデトップまで戻る。ここから、内田さんと佐久間さんはリフトで降りて行き、後の3人はデポしてあったスキーに履き替えて、ゲレンデを滑って降りて行く。



休暇村「裏磐梯」で汗を流し、手打ちそば「遊山」で美味しいそばを食して帰宅する。イエローフォールも、もっと規模が大きいのかと思っていたので、やや期待外れの感があったが、スノーシューで気軽に行ける良い場所である。

(一部、裏磐梯観光協会の文章を引用)

スキー合宿(水上宝台樹スキー場)

高橋 充夫

日 程 平成31年2月21日～22日

パーティ 永井、佐藤寛、高橋(充)、関(現地合流)

小見川支所に2月20日の午後5時集合し、各自の板やバッグ類を佐藤さんの新車に積み込んで出発。最新ナビ画面の何と大きいことか。それに、荷物をたっぷり積んでもまだ余裕の車内はミニバンの利点である。去年車を乗り換えて、狭さを感じているマイカーの室内では有り得ないゆったり空間に羨ましさを感じつつ快調に走らせる。

今回は北関東道を経由して目的地を目指す。車中ではスキー談議が弾み、時間を忘れて走行している内に関越道赤城高原SAに到着。ここで遅めの夕食を取って、今晚の宿の関さん宅に午後10時頃到着。いつもながら暖かく迎え入れていただいて、寝酒をご馳走になり日付が変わる頃には就寝。関さん宅周辺には雪の気配はなかったが、明日はたっぷりの雪に恵まれますように。

明けて21日。道中の除雪した雪溜まりを眺めながら4人で民宿「本家」に向かう。道端の積み重なった雪の塊は硬く締まった状態に見えて、しかも黒っぽく汚れており、昨日今日に除雪されたものではないことが分かる。柔らかい雪面に華麗にシュプールを描きながら滑る理想のシーンを想像しながらも、実際には硬い斜面に手こずる自分の方が現実的か。ほどなくして民宿本家に到着。いつもながら元気なおばさんの出迎えを受けた。昨年は都合がつかず、スキー合宿に参加できなかったが、館内の押し花の額は一昨年そのまま飾られていて、どこかほっとする。今年は無事にここに来ることができた。

民宿本家の目の前は、宝台樹スキー場である。

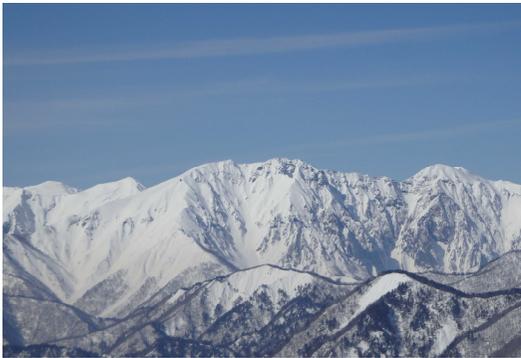
ここまでの道筋にはお目当ての雪は少なかったが、本家から見上げる斜面にはたっぷり雪があるように見える。すぐに着替えてゲレンデへ。

前日の雨のせいかわ雪質は硬い。エッジが立たず、思い通りのラインが取れない。自分の腕(脚?)の未熟さ故か。しかも今日は細かい雪



が混じるあいにくの天気だったため明日に期待して、一日目は早々に終了。夕食後は各自持ち寄ったお酒に酔いながら、山行談議、スキー談議で夜は更けていった。飲んでそのまま寝られる。すぐ隣にはゲレンデ。この幸福感、満足感。これがスキー合宿のいいところである。

二日目の朝。宿の窓からもまぶしいほどの日差しである。窓ガラス越しにも雲一つない快晴であることが分かる。60歳を過ぎていても、心はいっぱしのスキーヤーである。洗面、食事、身支度をしていても、はやる気持ちを感じる。みんな同じ気持ちなのだろうか。



天気が良ければ、ここ宝台樹のゲレンデトップからは、谷川岳や尾瀬を見下ろす至仏まで見渡せると聞いていたので、今日は絶好の『その日』であるはず。そして第9クワッドを降りると、その光景が待っていた。薄墨色

に縁どられた樹木のある山並みとその奥には真っ白に輝くゴツゴツ

とした山々が快晴の青空とともに遥かに見渡せた。何という爽快感。こんな日にここにいる充実感。永くスキーをしてきたが、こんな快晴の中、こんなゲレンデトップに立てることはそうそうない。くっきり見える山々を眺めながら至福の時間であった。

本来なら年間を通して積雪が多い時期のはずだが、ここ数年どうしたとか雪が少ない。昨日もほとんど降っていない。相変わらずのカリカリの斜面に手こずり、エッジを滑らせバランスを崩しながらも、今回のスキー合宿を楽しむことができた。

帰りには立ち寄り温泉の『湯テルメ谷川』で汗を流した。テルメ？（後で調べるとイタリア式の温泉のことだと知った）ともあれ、ここも谷川岳を見上げる絶好の位置にある。素晴らしい景観とスキーの後の温泉。

源泉が三つあり、贅沢な気分を味わいながら、ありがたく、そして気持ちよく入浴した。その後、関さん宅に立ち寄ってお別れし「また来年も」と思いながら帰路についた。小見川支所に到着すると雨だった。急に現実に引き戻されたような、だからこそ宝台樹の青空と遥かな山々が強く印象に残ったような今回のスキー合宿だった。

栗駒山（山スキー）

遠藤博昭

日 程 平成31年3月31日～4月2日

パーティ 宮崎、高橋(忠)、内田、遠藤

31日20時小見川を出発、今年もハイルザーム栗駒のコテージ営業開始に合わせて行くことになった。あいにくの雨模様、東北道に入り長者原SAに着く頃は雪交じりになってきた。地面はぐちゃぐちゃだが取りあえずテントを張り、仮眠する。

4月1日 明け方に雨は上がったが、高速を降り栗駒方面に向かうにつれ雪が積もっている。ここ数年来ているがこんな景色は初めてだ。真冬に戻ったようだ。駐車場に着く頃は車の底が付くくらいまでの積雪だ。一台車の通った跡があり何とか上がって来れた。降りると20cmくらい積もっている。車でぐるぐる回って雪をならしてもらってシートを広げ準備を始める。私と内田さんはスノーシュー、宮崎さんと忠さんは山スキー。8時30分出発、先客のトレースが有り少しは楽に登れそうだ。駐車場にはほかの車はなく、ここまで送ってもらって登って行ったようだ。樹林に入ると降ったばかりの雪が枝に積もっていて真冬に来ているようだ。1ピッチ歩いた休憩後、後ろから来た4人のボードを持ったパーティが追い付いてきて先に行ってもらおう。4人も歩いた後はもっと歩きやすくなった。10時10分、いわかがみ平に到着、一面の銀世界。去年は駐車場も出ている、土手にはフキノトウも出ていたが致し方ない。建物の陰の風の来ない所で少し長めの休憩。天気はあまり良くない時々晴れ間も出るが黒い雲の中から雪が飛んでくる。今年も頂上までは行けそうもない。もう少し頑張っって昼ぐらいまで登ってみようと思いきや歩き出す。後ろを見るとスキーをはいたパーティが追い付いて来た。さっさと先を譲りやり過ぎす。暫くすると、ずいぶん左の方に登っていく。夏道の中央稜を行くみたいだ。トレースもないのに元気な人たちだと感心する。このあと11時半まで頑張るが風と雪が強くなってきて止めにする。私達はスノーシューなので直ぐ下山に入れるが、スキー隊は手間がかかる。どうせ直ぐに追い付かれるだろうと内田さんと二人とっとと降りるがしばらくしても来ない。新雪が深く滑るのに手間取っている様だ。いわかがみ平付近に来てようやく現れた。だいぶ疲れている様だ。雪が深くてターンが出来ないようだ。傾斜が弱くなると止まってしまう、何ともスキーにならない様だ。ここから少し降りた風のない所でお茶タイム、スキーを外し大休止。時おり晴れ間も出るがいまいちの天気だ。この先は樹林に入り、雪が深く滑れそうもないので、板を担いで除雪の済んだ所から道路を歩いて帰ると宮崎さんが言い出し皆賛同。道路に出て雪の回廊を歩いて降りる。高い所では3～4メートル有り中々見られない景色で歩いていても気分がいい。この後忠さんが新元号の発表を入手、令和 に決まったと教えてくれた。たらたら歩いて駐車場に着いたのは14時50分。お疲れ様でした。あとから来たパーティの車もまだ

ありがたい苦勞しているのかなと少し心配になる。さっさと荷物を整理し雪道を慎重に下り、コテージに到着。この後はのんびり温泉につかり楽しい夕食になりました。期待していたフキノトウが雪に埋もれていて見つからなかったのは残念である。

4月2日 外を見ると少し雪がちらつき一面の銀世界。2月ごろの真冬に来ているみたいだ。少し遅い朝食を済ませ今日の予定を相談して、松島を観光して帰りましょと決まりました。春だというのに寒い一日でお寺をめぐるは雪が降り島めぐりの観光船に乗っても雪が降り珍しい一日になりました。



長井葉山 山菜採り

金井秀明

日 程 令和元年5月26～28日

パーティ 金井親子、他2名

同級生二人と娘と一緒に山菜山行にでかけてきた。場所は、去年銀嶺で行った長井葉山。去年より一週間はやく、きっとたくさん収穫できるぞと皮算用。

26日深夜、長井の道の駅に到着し仮眠。翌朝コンビニで買い出しをして、登山口の草岡へ向かう。去年とそっくりです。

薄曇りのもと出発、林道をしばらく歩いて大石大明神を過ぎると登山道の始まりとなる。ここらへんからミズやイタドリを採りながら進んでいく。小沢を渡り急傾斜をジグザグに登って疲れたころ、小規模な崩壊地に突き当たる。去年はここにヤマウドがあったので、よく探してみる。斜面の下に発見、ザイルを出して収穫に向かう。

傾斜がいくらか緩やかになってきた頃、残雪がたつぷりと現われ登山道を隠している。このあたりからコシアブラが目につくようになる。ちょうど食べごろの新芽がたくさんついていてうれしくなる。同級生二人は初めての山菜採りなので、なかなか見分けられないようだ。

去年より残雪が多く、登山道をたびたび見失いながらもなんとか葉山山荘に到着。雪のせいかネマガリタケがなかったのが残念だ。貸切状態の小屋の二階に陣取り、ゆっくり休んでから料理にとりかかる。水は、小屋の裏の雪渓を掘ったらたつぷり汲むことができ、去年汲みに行ったぐんぐん下った水場まで行かなくてすんだのはありがたかった。

夕方から、山菜の天ぷらをメインに、お浸しや炒め物をたくさん作って楽しい食事となる。やがて日は落ち、ほろよいとなって就寝。

翌朝、下山前に奥の院を往復。残雪たつぷりの祝瓶山や飯豊連峰が見事だ。去年の奥の院山頂は満開のドウダンツツジに彩られていたが、今年はまったく咲いていない。でも二年連続でここまで来れて満足だ。

小屋まで戻って下山開始。みやげ用の山菜を採りながらのんびり下る。同級生二人も慣れてきたのか、コシアブラを見つけられるようになってきた。順調に下って駐車場に到着。去年と同じく駐車場付近でワラビを収穫して、山菜山行は無事終了となる。

下山後は“卯の花温泉はぎ苑”で入浴。昼食はそばを食べたい意見が多く、健一さんおすすめの“たまげたラーメン”には今回も行けなかった。



船形山（山菜山行）

佐藤 實

日 程 令和元年6月6日～8日

パーティ 遠藤、高橋(恵)、宮崎、高橋(忠)、内田、鈴木、佐藤

はてさて、6月は山菜山行です。

計画の採用条件は今や山の良さ魅力とかではなく、宴に相応しい山小屋などがあることかも知れません。自分は今、決まった山行に参加の意志を示してついて行くだけの筈が、「いい山」に目が眩み自案を提言したばかりに、柳沢小屋泊の船形山へ行く事になりました。

7日、新しく出来た米沢の道の駅で仮眠を取り、天童から黒伏高原へと向かう。走りやすい林道を少しで、赤い三角屋根2つの柳沢小屋に到着です。

小屋の前には大量に流れる水場があり、外にトイレも完備。室内はと見ると十畳～程の畳敷きの広間と、それと同等の広さの薪ストーブエリアが並び、手入れをされた快適な宿を発見となりました。

不要品をデポし、車で更に林道終点迄入る。折からの小雨と山菜採りを考え、雨具を着ての出発です。

ブナの森に入り程なくして、あがりこ大王のような巨木が現れる。取りあえずは、山菜を目当てに進むが予想通り、コシアブラは皆大葉になっていて、先に期待するのみ。二次林と呼ばれる背の高いきれいなブナ林が見事に続いていて、とても嬉しくなりました。

粟畑分岐あたりから、皆さん山菜採りに集中となり、コースタイムは不問状態が続く、山頂は行けないかも、とチラッと思う。シラネアオイやサンカヨウ、ツバメオモトもそこかしこに咲いて、ハイキングコースさながらのルートです。

美味しい上物だけを採った昔とは違い、今は取りあえず採っておく主義が主流の山菜山行とあって、コシアブラ、こごみ、ハリブキ、ジタケなど、食べきれない程の収穫となりました。

なだらかな登りとトラバースを交え、楠峰近くからはようやく本峰と小屋が見えるもまだ遙か。三光の宮から見る船形山とはほぼ同じ遠さに思えた。船形山は奥が深いね。

遠藤さんと恵美子さんは、かつて、美浜名溪で名高い笹木沢に来た事があって、ツメ上がった所は楠峰手前の筈で、その頃に思いをはせて辿る道であったかと思う。

最低鞍部の仙交小屋跡には今は何もない。お昼休憩の後、ここで内田さん、宮崎さん、忠さんは下山する事になる。ピークをめざす恵美子さん、鈴木さんと遠藤さんに自分も付いて行く事にしたが、ここから標高差500mの急登はきつく、私は30分程で大休止をとる。先行の3人に心配をかけると思えど伝える術もなく、気を取り直

して登って行くと、遠藤さん達も下って来て、「時間切れで止めにした」と言っていたが、3人なら山頂迄行けた筈で、申し訳なく思いました。

4人でゆるゆると下って行くと、今回唯一採れなかったウドを発見。食べ頃サイズで、全員で味見する位採れて、山菜採り終了です。ブナの巨木「山の王」の側で写真を撮り、小屋に戻る。

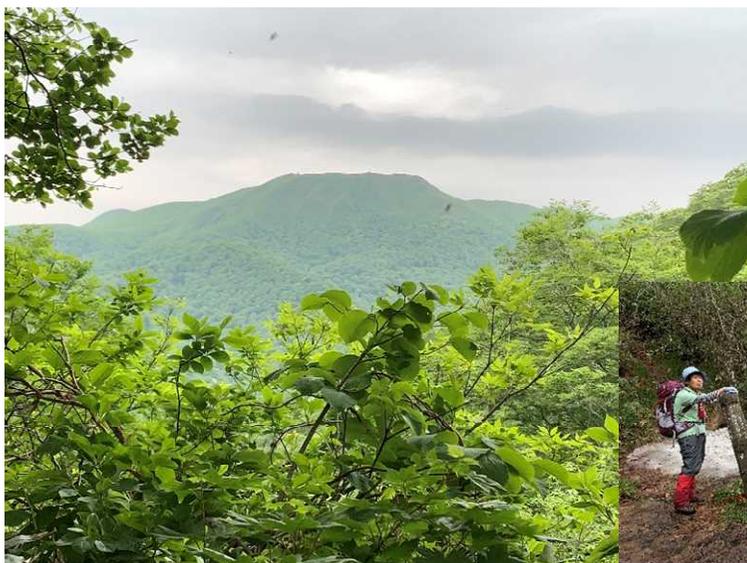
先に帰った内田さん達が、室内を整えてくれていました。収穫した山菜の下拵えと、宴会の準備を各々、みんなです。食材の下拵えと調理方法で、美味しさも様々に変わります。

沢山のごちそう皿がテーブル一杯に並び、皆さんのニコニコ話いつもの酒宴で、飲み放題、無制限の夜が更けて行きました。

今回は、恵美子さんが付きっきりで炊いたごはんで作った、ちらし寿司とジタケのアルミホイル焼きが、最高においしかった。ごちそうさまです。

8日、今日も窓の外は雨模様の朝です。ゆっくり起きて、朝ごはんを食べる。チェックアウトもないし、室内も何もなかった如く、きれいにして小屋を後に。

天気が悪いと見る所も限られ、快適でとても安い天童温泉ゆびあに入り、帰って来ました。



栗子・滑谷沢左俣

遠藤博昭

日 程 令和元年6月25日～28日

パーティ 佐藤、高橋(忠)、遠藤

25日20時小見川を出発、梅雨の合間を縫って釣りに出かける。今年は体力があれば前に歩いたコースを逆に歩いて見ようと思っていたが、初日のテン場に到着して一段落すると、重荷を持って移動するのが大変に思えて、去年と同様にここで2泊する事に決まった。何時ものように三春PAで仮眠。福島飯坂インターを降りると直ぐ左側にセブンがあったのになくなっていた。もう少し先に行くと右側にあったのでそこで朝食を済ませる。店の人と話をして見るとこちらに移転したようだ。6時45分東栗子トンネル前の駐車場に着く。身支度をしていると忠さんが測りを持ってきたそうでそれぞれの荷物を量ってみると、忠さん19.6kg 佐藤さん20.4kg 私のが一番軽いのかと思いきや19.6kg 奇しくも忠さんと同じであった、佐藤さんとの800gの差は何だろうか、7時出発、上に高速道路が開通し13号線の交通量も少なくなり道路を横切るのも楽になった。林道に入ると両側の草刈りもされており年々良くなっている。約1時間でトンネル前到着。今度来るときはここまで車でこれそうだ。小休止後トンネル出口付近で後ろから車が来た。軽トラに乗った二人組で摺上川愛好会とか書いてあるベストを見せてきた。今から手前の沢の烏川に入るらしい。私らの入る沢が気になる様でもう一つ先の滑谷沢に入ると言ったら安心したようで、たわいのない話で終わった。烏川橋を渡ると少し急な登りになる。ここから先はあまり整備されておらず歩きにくい。枝や葉っぱが覆い被さる様になっているところもある。9時45分林道の終点と思われる開けた所に出る。いつもはこの先10分ぐらい歩いた所に橋がありそこで入渓していたのだが、ここから沢に降りていくような道を見つけここを降りることにする。沢靴に履き替え出発、10分位で沢に出る。10時10分入渓、だいぶ先に出たようでヤブも少なく歩きやすい。沢を下ること40分位でテン場に着いた。いつもの場所は水の流れが変わったのかぐちゃぐちゃであった。対岸にもう一か所有りそちらに張ることにする。テントを張り終え周りを整えて焚き火の場所を決める。早く着いたのでまだ昼前である。枯れ木を集めて、ノコギリを駆使しての大仕事だ。目いっぱい二日分の薪を作る。昼食を済ませて少しのんびりした後、2時過ぎから釣りに出かける。忠さんは降りてきた方へ、私と佐藤さんは右股の方を釣り上げる。久しぶりの釣で気合が入るがなかなか当たらない。少し粘ったが駄目で佐藤さんの方へ見に行く。一匹釣れたそうだがそのあとはさっぱりでさらに上へ行くが川幅も狭くなり、さらに二股に分かれヤブも濃くなって来るので断念。まだ時間も早いので裏見の滝から下流へ行って見る。ポイントは一杯あるのだが一向に当たりがない、諦めて

帰る途中で一匹釣れた。裏見の滝手前で巻道ルート発見する。これで濡れずに帰れる。テン場に戻ると忠さんすでに帰っており焚き火を始めていた。余裕の顔で6～7匹釣っていた。有難うございますと最敬礼。この後は焚き火を囲み楽しい夕食となりました。

27日 朝食を済ませ8時10分出発、今日も天気はまあまあか、昨日見つけた裏見の滝の巻きルートを降りる。大滝までは1時間位かかった。ロープを出して慎重に降りる。ここでも十分釣れるのだが時間もあるのでもう少し先まで行って見るが流木で阻まれているところがあり、超えるのが面倒で止めにする。大滝周辺で思い思いに釣りに耽る。昼過ぎまで充分楽しみテン場に戻る。今日の目玉は刺身、皮をむくのは私の役目、佐藤さんが綺麗に盛り付けしてくれた。刺身に唐揚げ、塩焼きと、つまみがいっぱい、酒が進みすぎ早めに終わってしまいました。夕方少し雨がポツポツ来ましたが気になる程でもなく快適に眠れました。

28日 2日間の釣り三昧も終わり今日は帰る日。朝食を済ませテントを撤収、目いっぱいあった薪も綺麗に燃やし尽くした。7時20分出発、テン場を後にする。途中で雨がパラパラ来たがカップを着るほどでもなくそのまま歩いていると間もなくやんだ。8時10分入渓点到着。林道に出て靴を履き替えようとしたが道がぐちゃぐちゃなのでしばらく沢靴で歩く。道が良くなってきたところでアプローチシューズに履き替える。足元は軽くなったが、濡れた沢靴を荷物に担ぐとさらに重く感じる。烏川橋を渡り万世道路のトンネル9時30分、国道の駐車場には10時35分到着。楽しい3日間でした。皆さんご苦労様でした。



夏山合宿 荒雄岳・薬菜山

内田 章子

日 程 令和元年7月31日～8月3日

パーティ 遠藤、宮崎、佐藤(實)、高橋(忠)、内田

夏山合宿、久々の東北の山。予定は鬼首温泉近くの荒雄岳と須金岳だ。

猛暑続きの毎日だが、山も暑いのだろうか。

7月31日(水)午後8時 小見川出発。長者原SAで仮眠。テント泊の男性達は暑くて眠れなかったそうだが、車中泊の私は、効いていた冷房が残っていたせいか快適。

8月1日(木) 今日にはブナ林が美しいと言われる荒雄岳八ツ森コースピストン。

「あ・ら・伊達な道の駅」駐車場で車1台にして登山口に向かう。未舗装の狭い道を延々と、車2台くらい止められそうな車道の終点まで行くと、荒雄岳登山道の標識と案内図の看板が立てかけられている。

身支度をして8:00出発。登山道は、笹など下草は刈り払いされていて歩き良いが日差しの中、暑い、暑い！車を止めた辺りからアブがブンブン飛んでいる。

以前登山中にウシアブに刺されてアナフィラキシーショックを起こして以来、ハチ、アブは天敵である。羽音を聞いただけでぞっとする。

ハチ、アブに効くというハッカスプレーを身体中に振り撒き、ザックにも取り付ける。ただ、後ろの忠さんが笹の枝で、ずっとアブを追い払ってくれていたのも、アブの存在をあまり意識しないで安心して歩くことができたが。

すぐに樹林帯に入り、鬱蒼とした登山道が続く。でも傾斜も緩く、思いのほか綺麗な道で登りやすい。杉林を抜けてジグザグの九十九折の道が始まると、ブナの木が増えてくる。巨木も多く、ブナの美林が続く。さぞかし秋、黄色に色づく頃は素晴らしいだろうな、と思う。何故かブナの森を歩くと癒されるのはどうしてだろう。

九十九折が終わり、稜線の平坦な道を少し下ると、鞍部から山頂まではもう少しだ。

9:59 ブナ林に囲まれた丁度良い広さの静かな荒雄岳頂上に到着。

頂上の少しだけ見通しのよいところから、栗駒山のたおやかな姿がぼんやり望める。ゆっくり休憩して、来た道を下山。

地味で目立たない荒雄岳だが、初めて登ってファンになってしまった。違う季節にまた是非登りたいが、来れるだろうか・・・

コテージには時間が早いので、鬼首の地獄谷遊歩道へ寄る。

小川に沿って歩くがあちこちから湯煙が立ち、温泉がボコボコ湧き出ている。名前のようにいかにも地獄谷という感じ。ゆで卵を作れる場所もあるようで、卵持参の人もいた。吹き出るお湯が歩道まで溢れている所もあり、立ち入り禁止になっている。

時間を見計らって今夜の宿、やくらいコテージへ。

1棟、1棟が、余るほどの敷地に建てられているコテージは、外観も室内も素敵だ。やくらいリゾートの一角にある「やくらい薬師の湯」で汗を流してから、冷暖房完備のコテージで食べて飲んで楽しい一夜を過ごす。

8月2日(金) 今日猛暑になる気配。須金岳の予定だったが、この暑さで、荒雄岳より長く厳しい須金岳は無理と判断。急遽、近くで標高の低い薬菜山に変更する。

「加美富士」の名で親しまれている小さな名山で、標高の割に大きく裾野を広げる独立峰である。レストハウス前の赤い鳥居をくぐり、舗装された道をまっすぐ進み、二つ目の鳥居が登山口だ。所々に「マムシに注意」の立札。

登山口から杉木立に入るとすぐ階段へのスタートの看板。「階段は706段です」と。50段ごとに表示されている不規則な階段をフウフウ言いながら706段登りきる。

やがて稜線に出ると平坦な道になり、ほどなく薬師堂のある南峰に着く。薬師堂をお参りして、なんでもご利益のある、という姥神様の石像の前を通過して三角点がある北峰へ。大崎平野が一望出来る北峰で休憩。暑い、暑いと言いながら、忠さんが、冷たいまま持ってきてくれた黒蜜トコロテンの美味しいこと、美味しいこと。

生き返る思い。ありがとう！

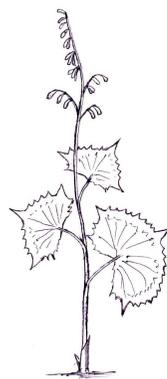
登ってきた階段を下るのはつらいので、別な道を下りた。

一度、冷房の効くコテージ戻り、お昼をして午後は釣りに。同じコテージに2泊出来るのはとてもゆったりした気分になれるので、私一人、釣りはやめてここでのんびり過ごすことにする。みんなは大滝川、不動の滝周辺(なかなか良い所だったらしい)で釣り。釣果は佐藤さんのヤマメ1匹。その貴重な1匹を一人ホイル焼きでご馳走になってしまった。申し訳ありません。

最後の夜も、食べて、飲んで、午前様までの長い時を楽しんだのだった。

8月3日(土) 今日朝から暑い。あまりの暑さに観光する気にもなれず、まっすぐ帰宅。おかげで銚子の花火に間に合ってしまった。

連日の猛暑に負けた夏山合宿でした。



小菅川本谷

鈴木 喜久枝

日 程 令和元年8月5日～6日

パーティ 佐藤、高橋(忠)、金井、高橋(恵)、鈴木

また沢に行けるなんて思ってもみなかった！

30年ぶりの沢です。大菩薩峠付近の沢の入門ルートで、ザイルも必要なく易しいとの事。多分、私の事を考慮して佐藤さんが選んでくれたのでしょう。と勝手に想像ありがとうございます。沢靴とヘルメットは恵美子さんにお借りしました。小柄な彼女の靴で大丈夫？ ちょっと心配でしたが、調達する時間もないのでなんとかなるでしょう。

5日夜、小見川を出発。6日、奥多摩こすげ道の駅で仮眠。朝食を済ませ、大菩薩峠日向沢登山口方面へ向かう。林道終点で身支度を整える。金井さんが重い物があつたら持つから出して、と言ってくれた。日帰りだし、水もあまり要らないし、と思いつつもちっちゃかり下山用靴をお願いします。助かります！

6：45出発。荷物は軽いが心はちょっと重い、緊張のため。沢は思ったより明るくて緑がきれいだ。やっぱり沢の水は冷たい。岩はすべりそうな気がして、なかなかリズム良く飛び移れません。最初はへつぴり腰だ。わさび田仕事小屋を過ぎた辺りから小滝の連続で、さらに緊張。写真も撮りたいが、それどころではない。ザックにいれたまま。忠さん、いつもありがとうございます。難しい所は金井さんに引っ張り上げてもらったり、忠さんに押ししてもらったり。もう全身ビショビショだ。

お昼に着替えて、恵美子さんが作ってくれたソーメンと温かいお茶でホッと一息。もうかなり上の方に来ている。広い空が見えて沢は一段と明るくなった。が、まだまだ水量は多い。小さなナメ滝が続いていて、美しくほんとに癒される。

だんだんと水量が細くなって、詰め急登が始まる。そのうちに雨がポツポツ降って来た。おまけに雷までやってきて、まるで近くに落ちた様なもの凄いな音。疲れているけどこうなったら歩くしかない。地図によると、登山道は近いはずなのになかなか現れない。この沢から永遠に抜け出せないんじゃないかと不安になりながらひたすら登る。

4人よりだいぶ遅れて、やっとの事で登山道に出た。助かった～！

介山荘、日向沢登山口を経て18：04駐車場着。お疲れ様でした。長かったけど充実した一日でした。皆さんありがとうございました。



白水沢左俣

金井 秀明

日 程 令和元年8月25～26日
パーティ 金井、他2名

同級生二人と甲子温泉の奥の白水沢左俣に行ってきた。去年、丹沢の勘七の沢を12時間ほどかかってしまったメンバーなのでちょっと不安もあるが、今年は大丈夫だろう。

25日深夜、甲子温泉に到着、手前の空き地で仮眠し翌朝7時には出発。甲子温泉大黒屋の敷地を通過して白水沢に降り立つ。

溪流に足を入れひざまで濡れると沢登り始まりの実感が湧く。正面には10mの白水滝がどーんと見える。事前にネットで調べた限りでは、ここが最難所とのこと。ザイルで確保しながら慎重に登る。しかし、ここからも10mや20mクラスの滝が続き、ほどほどに難しい。足のそろったパーティならフリーで越えていけるだろうけど、今回は初心者揃いなのでザイルをずっと使う状態で、必然的に時間はかかる。

時おり日差しが差し込むと、白色凝灰岩の沢はきらきら輝き美しい。ナメを楽しく歩いたり、滝を直登したり巻いたり、沢を堪能しながら進む。二俣に到着すると、ずいぶん倒木が多く荒れている。まだ新しい倒木ばかりだ。春に豪雨でもあったのか。ここでゆっくり休んでから左俣へ入る。以前、宮崎さんはここで間違えて右俣へ進んだそうだ。確かに右俣の方がちょっと立派に見える。

左俣へ入ると、水量は少なくなったが、まだまだ手ごたえのある滝が続く。直ぐに奥の二俣に到着。持ってきた逆行図は右へ進むルートが載っているが、今回は左へ進む。こちらの方が最近では逆行者が多く、しかも早く登山道に出られるということなので。

左の沢は入口の滝がいきなり難しい。ザイルを使って登って、終わりも近いかと思うころまだ大きい滝があり、今日一番の高巻きをする。ここを越えると傾斜もきつくなりやっと水も涸れてきた。最後は笹の中を20分くらい藪こぎをして登山道に出る。出発からここまで約6時間。

登りの時間がかかったので、甲子山には寄らずに一気に下山する。途中から雨になったが、2時間で大黒屋に到着。ちょうど午後3時だ。残念ながら、楽しみにしていた大黒屋の日帰り入浴時間もちょうど終わってしまったところだ。でもその後に寄った“ちゃぼランド西郷”の風呂は安くていい温泉でした。

来年もこのメンバーでどこかへ行こうと話しながら、帰路につく。

白川 釣り山行

内田 章子

日 程 令和元年9月3日～5日

パーティ 遠藤、高橋(忠)、佐久間、内田

恒例になった大日杉小屋泊りのイワナ釣り山行。何年目か？

この小屋泊りの時はいつもそうするように途中で仮眠はせず直接小屋まで来てしまう。平日だし誰もいないだろうと車を降りると、小屋に明かりがついている。先客がいるのだろうか。そう云えば去年もそうだった。起こしては悪いと二階の寝所に上らず、そっと一階の広間で寝たら、朝早く「食事をするので二階へ行って下さい」と起こされたのだった。

シュラフだけ持って小屋に入ると管理人室もトイレも電気がついている。と、いうことは管理人さんも来ているのか。下駄箱には汚れていない登山靴が4足。多分明日は早立ちで飯豊に登るのだろう。去年のことがあるので今回は二階の広い寝所に行き、それぞれ「勝手知ったる」で好きな場所でシュラフに潜り込む。

釣りだけが目的なので、泊まっていた人達が出発した後、荷物を運びこむ。車で小屋まで入れるので、あれもこれもと荷物はだんだん多くなる。もともとはこの小屋泊りが目的(私はですが)のようなところもあるので、一泊でもいかに心地よく過ごすか、を考えると、ついつい多くなってしまう。

去年は薪がなくてストーブが焚けなかったと、忠さんはだいぶ前から薪をたくさん用意していたし、簡易洋式トイレ便座まで持ち込んで。

ゆっくり朝食を食べて管理人さんが沸かしてくれたコーヒーをご馳走になり、釣りへの身支度をやる。

今までは、釣りに出かけるみんなを見送り、CDラジカセを持ち込み、音楽を聴いたり本を読んだり、側の小沢でちょこっとだけ釣りをしたり、一人で思いっきり小屋を楽しんでいたが、今年は違った。今になって(この年齢で)沢靴を買い替えたのである。と、いう訳でみんなと一緒に沢で釣りをすることにした。

ヘルメットを被るのは何年ぶりだろう。新しい沢靴の履き心地もよく、ザブザブと渡渉も楽しい。沢歩きは久しぶりなので、小屋を出発したときは少しドキドキしていたが、沢登りが楽しかった頃を思い出してウキウキに変わっていく。お助け紐を新調して後ろについてくれていた忠さんの方がヒヤヒヤしていたかも知れない。

去年、釣れたという滝のある枝沢で遠藤さんが竿を出し、忠さんは先の枝沢へと進む。イワナの入った袋を嬉しそうに掲げてくる遠藤さんの姿を想像して、佐久間さんと期待しながら待っていたが「あたりがない!」「おかしい!」と戻ってくる。

予報では雨模様だったが明るくなり青空ものぞいてくる。休憩をするのに良さそう

なきれいな河原に移動して、釣れた1匹を持って戻ってきた忠さんとみんなで昼食を兼ねてお茶。何とか人数分は釣りたいと、イワナを求めて遠藤さんと忠さんは、奥の二股まで行ってみると出かける。佐久間さんと二人、広々した河原で遊びながら釣りをして待つことにする。「1匹でも釣りたいね」と竿を出すのが、根がかりばかりで肝心のあたりがない。上流に行った二人も水量が多くて奥の二股までは行けなかったと帰ってきたので、この辺りのポイントで最後の挑戦をして小屋に帰ることにする。

今回は何故か釣果がない。時期が早いのだろうか。

昨年より水量が多いからと、遠藤さんと忠さんが、渡渉する度に佐久間さんと私を気遣ってくれる。サポートのおかげで怖いとは思えず、楽しくさえあった。

イワナは釣れなかったが、途中見つけたキクラゲと上物のアカミズをたくさん収穫して小屋へ帰る。釣果が不満足のように、忠さんは小屋前の沢を少し上った堰堤へ再度挑戦に出かける。ところが長時間でもないのに、なんと・・・匹も釣ってきたのだ。

「始めからここで釣ればよかったね」「沢を歩くから楽しいんだよ」など。イワナ釣りでイワナが食べられる嬉しさで、みんなのテンションも上がる。

持ってきた薪でストーブを焚き、遠藤さんお得意のミズとコンビーフ炒め、イワナのホイル焼き、唐揚げ、豚しゃぶなどなど、テーブルいっぱいの料理とビール、ウイスキー、日本酒と一番の楽しみな宴会の始まりだ。暖かい薪ストーブの火がなおさら宴会を盛り上げてくれる。

今夜は管理人さんが居るので、消灯時には一旦切り上げ、二階で二次会を静かに静かに……(*^へ^*)

翌朝は遅起きで朝食をゆっくり食べてのんびりする。働き者の遠藤さんと佐久間さんは近くまでお土産用のミズを採りに行ったが。

いつもの温泉、白川荘で入浴。帰り道「三ノ倉高原花畑」で広い丘一面の、太陽のようなひまわりの花の中を散歩する。

相変わらず居心地の良い小屋と沢での楽しい釣り。

また来年も来られることを願いながら白川釣り山行を終える。



御 嶽 山

高 橋 恵 美 子

日 程 令和元年9月29日～10月1日

パーティ 鈴木、高橋(恵)

御嶽山が大噴火した五年前のちょうどその日に、山行を計画していた。候補として御嶽山を挙げたが賛同を得られず、却下になってしまった。御嶽山に登るチャンスは無いのかなと思ったものだが、そのお陰で命拾いしたのかも知れない。

10月の山行に参加出来ない者同士、鈴木さんと木曾御嶽山にチャレンジする事にしたのだが、天気予報が悪く、ずっとぐずついた天気が続きそう。東北方面の山にしようか、悪くても突っ込むか、迷いに迷って最終的に御嶽山に決まったのは出発直前だった。何とも危ない話だ。

王滝口コースは規制が掛かっている頂上までは行けないので、10月16日まで規制解除されている黒沢口コースを選ぶ。歩き出しの時間を考え、御嶽ロープウェイを利用する事にする。予想に反して、駐車場に着く頃には真夏のような天気になり、暑い！ゴンドラを降りると7合目。ここから頂上までコースタイム3時間半余りの行程だ。宿は五の池小屋。ミーハーにも、カンブリア宮殿でこの小屋が取り上げられていたのを見て、泊まるならこの小屋にと思ってしまったのだ。朝出発前に予約を入れたのだが、道々後悔することになってしまった。

ウッドチップの遊歩道を10分程歩くと行場小屋。ここから丸太の登山道に変わり、歩幅と朽ち加減がちょうど良く歩きやすい。久々の重荷、大丈夫かな？

女人堂に着くと一気に展望が開ける。残念ながら頂上はガスっていて見えない。ここから三ノ池への近道があるが、今も通行止めになったままだ。沢山の碑が立ち並ぶ金剛堂の前を過ぎハイマツ帯の中の道を暫く歩くと、森林限界を越え更に見晴らしが良くなる。右手の山肌の紅葉が美しい。赤いのはナナカマドか、ピークまで後4、5日というところかな。

登山道はこのあたりから大小の岩が重なったガラガラの道となり、傾斜もグッと増す。急な岩の斜面に建つ石室山荘と覚明堂が頭上に見えているのに、なかなか近づかない。息も絶え絶え、一步一步登るしかない。ポツポツと下って来る登山者とすれ違いうようになる。平日なので数は少ない。

どうにかこうにか山荘まで辿り着いた。稜線までもうひと頑張り。この30分がきつい！ 1時半過ぎ、やっと稜線に出る。頂上は行く気はもう無く、先を急ぐ。五ノ池小屋までコースタイムで1時間半。最低2時間はかかるだろうからモタモタしていたら暗くなってしまう。

分岐から緩く下って行くと二ノ池が見えてくる。火山灰に覆われて広い運動場のよ

うになってしまっている。噴火前どんな色をしていたのか、どの位の大きさだったのかわからない。水も二の池小屋の前に一部が残っているだけのようだ。どっしりとした黒い外装の新築の二ノ池小屋と硫黄色した池の眺めは妙にマッチしてなんだか日本じゃないみたい。印象に残る風景でした。

小屋の前の案内板には五ノ池小屋まで70分とある。まだまだだなあ。ここも良さそうな小屋、泊まりたい！ 五ノ池小屋予約して失敗、体調不良を理由にキャンセルしてしまおうか、などとゴチャゴチャ言いながらも、結局それも出来ずに先に進む。疲れて元気が無くなるに従い、段々と機嫌が悪くなる2人でした。

二ノ池ヒュッテの分岐を左に見送り、賽の河原へと下って行く。稜線に着く頃から前にも後ろにも誰もいない。「特別足が遅いのかな？ いやいや、夜遅くに千葉を出て、2時間ほどの仮眠で400km運転してきて、それからここまで歩いて来たんだから、歳の割にはたいしたものじゃないか！」と慰め合う。

摩利支天の稜線まで上り返し、そこから五ノ池まで又下らないと小屋には着かない。避難小屋を過ぎ少し進んだ所にある案内板の前でやっと三ノ池が見えてきた。コバルトブルーの美しい池だ。稜線まで何とか上り切り、ジグザクの急な斜面を下って行くと待望の五の池小屋に着く

小屋はTV放送されていた通り、建物もきれいに管理され、食事の手造りで美味しく、生ビールまで有りました（もちろん頂きました）。食事だけでお腹がいっぱいで焼き立てのピザと手作りケーキを食べられなかったのは残念でした。

小屋前のリクライニングチェアで、隙間が無いほどの満天の星空を眺めた後、たっぷり睡眠をとったので朝には元気も回復。実に久しぶりにご来光を楽しみました。雲海がとてもきれいで中央アルプス、南アルプス、その奥に富士山の姿もくっきり。北に目をやれば正面に乗鞍、槍から穂高の峰々、一番奥に見えるのは薬師岳か。そして西には、大海原に浮かぶ大きな島のような白山が。大きい山だね～ 美しい！

千葉まで帰らなければならないので、朝食後、早々に小屋を出る。ピーカンだ！ 摩利支天の稜線まで上り返すに連れ、乗鞍・穂高の峰々が大きくなる。稜線からは賽の河原越しに剣が峰頂上もくっきりと見える。この景色を見られただけでも遙々来た甲斐があるというもの。昨日は眺める余裕がなかった賽の河原は紅葉の見頃を迎えていた。真っ赤に染まったウラシマツツジがパッチワークのようで愛らしい。

コンクリートの長い階段を上がると、剣が峰頂上。山頂と言うより社や碑が建てられた展望台のような場所だ。360°の素晴らしい眺め。歩いてきたコースが良く見渡せ、何とも雄大な景色だ。すぐ下に二ノ池、その一段上に、ぶ厚い火山灰にすっかり覆われてしまった一ノ池。山頂にこんな大きな池が有るとは何とも不思議。王滝方面に目をやると爆裂火口がパツクリ口を開け、凄まじい。荒れ果てた小屋は噴火の凄さをものがたり、階段のステンレス製の手すりもつぶれて歪んでいた。この場所で命を落と

した人達や今も行方知れずの人達の事を考えると、ここに来る事にためられる気持ちもあったが、山は明るく雄大。火山灰に埋もれた池さえも元々の景色のように思えてしまう。慰霊碑に手を合わせ、下山。

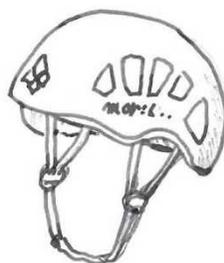
12時、往路をたどって、無事山頂駅にもどる。

信者さんが大勢登っていることもあって、甘くみていたのかもしれないが、予想していたよりずっとハードな山行になってしまいました。が、さすがに眺めは素晴らしく、やっぱり行って良かった！ でも3000メートル峰はこれが最後かな？

コースタイム

30日 ロープウェイ駅9:45 - 女人堂11:45 - 9合目13:35 - 五の池小屋15:20

1日 五の池小屋6:50 - 剣が峰9:10/9:25 - 女人堂 10:45 - ロープウェイ駅12:00



秋田 太平山

高橋 忠

日 程 令和元年10月8日～10日

パーティ 遠藤、宮崎、内田、佐久間、高橋(忠)

秋田市内には全国三吉神社の総本宮があり、その奥宮が、薬師の峰・修験の山である太平山の山頂に立っている。今回、その太平山に行って来ました。小見川を19時出発、錦秋湖SAでテン泊。翌朝6時にはSAを出発、出発して間もなく正面に綺麗な虹が架かり、何か良いことがありそうな予感がする。

秋田中央ICで高速を降り、旭川治水ダムを通り、長い長い林道をひたすら走る。平成20年の9月に、山頂の奥宮に併設されている参籠所(山小屋)が火事で焼けてしまったそのすぐ後に、遠藤さんと内田さんは、太平山に登っているらしく、その時はこの林道もかなり荒れていたらしいが、今は狭いけれど舗装されている。この一帯は国指定の国民の森に指定されている関係で良く整備されているようだ。

登山口の旭又駐車場に、8:45 到着。駐車場にはすでに4・5台の先客がいる。支度を調べ、9:10 旭又コース往復出発。途中、赤倉沢・旭又沢・弟子還沢に架かる三カ所の橋を渡り、10:04 御滝神社に到着。ここまではなだらかな登りだ。御滝神社を過ぎると、あやめ坂という標識が目につく。優しそうな坂かと思ったら、何ととても急なきつい登りが続く。前回来た、遠藤さんと、内田さんもほとんど記憶になく簡単に登ったような気がすると言っていたが、かなりのハードワークになりそうだ。太く真っ直ぐに伸びた秋田杉やブナの木にパワーをもらいながら、12:00 御手洗神社到着。神社を出発して間もなく、登山道に横たわっている倒木にナメコを発見、帰りに採ろうと言うことで先に進み、しばらくすると又、登山道脇の倒木に、ナメコを発見。この先、急登の七曲りが待っているなので、休憩を兼ねて、ナメコを採ることにした。1本の木にびっしりと生えているので、ここだけでビニール袋一杯である。こんなにナメコが採れたのは初めてである。12:53 七曲りの始まり。カーブごとに番号札が掛けられている。七番目のカーブを過ぎて間もなく、旭岳と太平山の鞍部の稜線に出る。右の旭岳、左手の太平山の分岐点だ。視界いっぱいには紅葉が広がる。今までの疲れが吹っ飛んでしまった。分岐点にある鐘を鳴らし、右手の太平山山頂を目指す。斜面の中程にステンレス製の鳥居がある。そこから山頂までの階段がまた急である。13:22 山頂到着。三吉神社の奥宮は大きくとても立派である。また隣に立っている参籠所も火事の翌年に再建され、これまた立派な建物である。山頂からは、岩木山、森吉山、岩手山、和賀岳、鳥海山などの有名どころの山がたくさん見えるはずなのだが、残念ながら視界が悪くよく見えない。風が強く、気温も9℃と低く、時間も遅いので、記念撮影をして、神社前で風を除けながら行動食を食べて、す

ぐ下山することにした。途中、最初に発見して残して置いたナメコ、もうすでに沢山採っているのだが欲が出て、皆で夢中で採る。きのこ山行の前のきのこ山行になった。13:50に下山を開始して、16:48に駐車場到着。帰りはかなりスピードアップして下山した。

宿泊は、旭川治水ダムの側の太平山リゾート公園。広大な敷地の中にテニスコート、グラウンドゴルフ場、オートキャンプ場、スキー場、トレーラーハウス、温泉旅館など様々な施設がある総合公園で、その中のトレーラーハウスが宿泊場所だ。時間も遅いので受付を済ませ、トレーラーハウスに荷物を急いで下ろし、温泉旅館(クアドームザ・ブーン)に入浴に。このクアドームも大きな建物で、温水プールも有り、大浴場までの行き方がよくわからず、迷子になりそうであった。入浴を済ませ、トレーラーハウスに戻り、夕食の準備。鍋や採ってきたナメコを囲み、乾杯したのが、19:56。長旅、山の疲れもあり、12時少し前には、皆眠りについた。

翌朝(10日)、8時頃朝食を食べながら、観光場所を相談。世界三景 男鹿半島の寒風山そして入道埼灯台を見学して、日本海、鳥海山を眺めながら帰途につく。



Wakachiku Climbing Club (WCC)

佐藤 健一

日 程 三ツ峠2019年5月6日 燕岳5月23日～24日 立山7月26日～27日 涸沢9月27日～28日

パーティ 佐藤健一、他

しばらく銀嶺の山行に行けないでいますが、ここ数年は会社の仲間や家族と山に行っています。今年から会社がクラブ活動に助成金を出すことになったため、正式に「若築建設クライミングクラブ(略称WCC)」を立ち上げました。銀嶺の山行計画をホームページでチェックして同行する機会をうかがいつつ、会社の仲間と山に行っているこのごろです。

【三ツ峠 5月6日】

日帰りでも初心者でも行ける山ということで三ツ峠に行きました。あいにく曇りの天気で富士山の眺望はありませんでした。この三ツ峠が令和最初の山となりました。



【燕岳 5月23日～24日】

燕岳から北アルプス裏銀座の残雪に輝く雄大な景色を眺めようということで話がまとまり、4人で行きました。天気がよく、穂高連峰・槍ヶ岳から遠くは立山・剣岳まで素晴らしい眺望でした。私ともう一人はテントを担いで行きましたが、燕山荘前のテント場は雪の上で夜は氷点下まで冷え込み、ペグ代わりに使ったトレッキングポールが抜けなくなり壊れました。





【立山雄山 7月26日～27日】

助成金が出るなら少し贅沢に行こうという事で、立山黒部アルペンルートを使って立山雄山に行きました。初日、室堂から雄山を経由して雷鳥平に下って雷鳥荘に泊まり、翌日はのんびりと黒部ダムを見学しつつ戻りました。

雄山の登りでは久しぶりに雷鳥を見ました。最近はキツネや猿などに捕食されるなどの影響で生息数が減っていると聞きます。



【涸沢 9月27日～28日】

以前から娘と涸沢の紅葉を計画していましたが、今年ようやく実現し、娘と娘の勤務先の同僚を連れて行ってきました。彼女たち2人は昨年屋久島で13時間歩いた経験があり、私と違って元気いっぱい。見栄を張ってテントを持って行かなくてよかった！今年は残暑で紅葉が遅れ、涸沢は9月末でまだ2～3割の色付き。それでも好天に恵まれて暖かく、涸沢ヒュッテも宿泊客が少なかったため、ふとん一組に1人と快適に過ごせました。今回は紅葉が残念だったので、来年リベンジして北穂にチャレンジすることにしました。



筑波山 思い出と今

小山田 泰幸

日 程 平成のむかし～令和のいま
パーティ 小山田、他いろいろ

「山らしきところ」を歩かないでいると「自分」という資産が目減りしていくようなあせりを感じて、たとえ間に合わせの感じであっても日帰り歩きにでかけます。（家族状況の変化で、家を空けにくい雰囲気にはまり込んでしまったみたいです。最近、外泊した記憶がありません。自分で自分を縛っているような気もするのだけれど。）

「野山」は手近にいくらでもあるが、もう少し高低差がほしい。体と心が「登降」を求めています。都会の山好きの人がビルの階段の昇り降りをしているのも、ただの筋トレという意味以上の気持ちを感じます。アプローチに時間制約はあるが、高低差の手ごたえはほしい。その妥協点が、筑波山になるのです。

トレーニング的傾向が強いか思いながら、けっこう楽しんで歩いています。

筑波山は、ロープウェイとケーブルカー、それぞれに並行した登山道が「一般」向けで、まともです。そういうルートでも楽しめますが、わざわざ時間とガソリンを使ってやってきたら、つい、ひねりをきかせたくなります。

筑波山には昭和の頃から登っています。北面の山中には、かつてユースホステルなんでもものもありました。いつしか、四方から登路があることを知り、子供が小さいころは家族でいろいろ探検しました。インターネット環境が手もとにあったとは思えない頃ですが、いかにして知ったか、新旧様々な登路の情報を入手し、ひとつひとつ極めてみたくなりました。

折しも、小見川高校でワンダーフォーゲル部の顧問をしていた時期——関東をふちどる山々まで出かけることもいとわないうほど、……「若さ」とは、このことか。皮肉なことに、筑波山では物足りなさを感じていた時期です。個人的に出かけるのでは、休日をもったいない。そこで、ワンゲル部員たちを巻き込みました。

ある年の文化祭で、旧小見川町が推奨していたウォーキングルートを部員たちと現場取材し、手書きの地図を作って展示したことがありました。運動部なのに文化祭参加！

というのを部員たちもけっこう楽しんで活動していました。反響はともかく、自分たちで充実感を覚えた部員たちと、次の年の文化祭展示テーマに、「筑波山」を選んだのです。学校部活動の特権である、「趣味と実益」両立です。

当時は繰り返し訪れる山とは考えていなかった筑波山に、文化祭のための取材だけで3回ぐらいいは出かけたと思います。ところが……情けないことに、貴重な経験の記録が、

文化祭終了とともに散逸してしまいました。調査展示した年は、私が小見川高にいた最後の年かその前年か、ですので、数えてみると22～23年前、つまり平成10年あたりのはずです。それなのに、記憶がはっきりしません。登山経験として、一段低く見ていたのでしょうか。切れ切れに風景は脳裏に浮かぶのですが、「この場所には来たことがある！」という、映画などでよくあるような感動的な思いをしたことがありません。

最近とくに気になってしかたがないのは、筑波山神社から薬王院までの間のどこかの尾根筋をたどって歩いた登路の記憶です。中腹の林道から取り付いて、明瞭な尾根筋に沿って古いながらもスプレー赤ペンキの丸印を確認でき、わくわくしながら廃れかけた古道をたどったものでした。この「探検」は上部まで行って道を見失い、やぶの中を迷走したあげく、「大石重ね」（ケルンの一種と言えなくもない）に出会いました。これは薬王院方面からの、現在も普通に登山者が通るルートがあって、それが「男体山自然研究路」というハチマキ道と合流するあたりにある史跡(?)です。

二十数年前、自分たちがどうして道迷いしたのか、今さらですが敗者復活戦(!?)を挑もうと思っても、当時どこからその尾根筋道に取り付いたのか、林道を右往左往しても思い出せません。風景が変わってしまったのです。当時、筑波山南西側の山腹を薬王院から梅林園までつないでいた林道は、国土地理院2万5千分の1地形図にも表示されており、今も地図同様道の位置は変わらないのですが、林道の周囲に植えられていた檜の若木が、現在は立派な成木になってしまって、関東平野の眺望をぴったり塞いでしまったばかりか、林道の印象をすっかり変えてしまったのです。

さらに悪いことに、それらマイナーな登山道は、時代とともに、「入山注意」からさらに「進入禁止」へと徐々に入山者につれない顔を向け始めています。それでも、ミカン園付近の住人のかたが「登れますよ」と言うのに勇気を得て、歩きまわっています。私が繰り返し筑波山に出掛けても退屈しないのは、以上のごとく「探検」のおかげなのですが、具体的にどこをどう歩いたのかは、「通行止め」の「顔」を立てて、自慢げに紹介するようなまねは控えます。

ただし、私にも私なりの主張点があります。「公認」から外された不遇の登山道たちを歩いてみると、ところどころ猪たちが食料(?)を求めて大掛かりにほじくり返した跡があり、「耕された」表土は降雨であっさり流れ去るでしょう。それが普通に人の歩く登山道ならば、「にんげんのにおい」に猪たちも多少は緊張感をもって付近を徘徊するでしょう。いまのままだと、猪のふるまいが傍若無人すぎます。山腹という「面」は猪たちのフィールドとして尊重してあげても、登山道という「線」は猪たちへの「けじめ」として人間たちが管理しておいたほうがいいのではないかと、私は思うのです。

なお、この旧道たちの「踏み跡」は結構くっきり残っています。だれか歩いているね。

やれ^み猪の子^{われ}吾も山の子つくばの子

大きなスイカの思い出

古川 進一

スイカを背負って南アルプス南部縦走をした思い出です。東京支部の会員と夏山合宿をした時の出来事を思い出して書いてみました。

新宿より中央本線に乗り、甲府で身延線に乗り換え、身延駅で下車。身延より奈良田行きのバスに乗り、早川町新倉で下車。ここからいよいよ登山を開始し、今日の目的地の二軒小屋へ向かいます。

このコースは大昔から、甲州から伊那へ二つの峠を越えて行き来されていた道です。日本で一番高い2580米の三伏峠と2040米の転付峠を越えるのですから大変なアルバイトであったでしょう。

東海パルプが大井川上流の木材を切り出しているの、二軒小屋への登山道は良く整備されており、とても歩きやすいです。山の神を祭った小さな石の祠が置かれ、木々に囲まれた静かなたたずまいの転付峠から一時間程の下りで二軒小屋に着きました。

現在の転付峠は、東海パルプが峠まで林道を作ってしまったので、昔の面影は全くなく、二軒小屋も静岡方面から東海フォレストのマイクロバスで来られるようになってしまいました。一日目は明日登る千枚岳の登り口にテントを張り、たき火を囲んで食事をもって終わりました。明日は、今回の山行で一番大変なマンノの頭への登りです。

二日目は千枚岳へ続くマンノの頭への登りから始まります。樹林帯のきつい登りで、7時間程の南アルプスでも一二を競うきつい登りです。まだ暗いうちに登り始め、日の出を迎えても樹林の中なので薄暗く、ただ黙々と登るのみで、やっとマンノの頭に着きました。大崩壊しているへりを通る登山道を慎重に歩き、千枚岳へ向かいます。

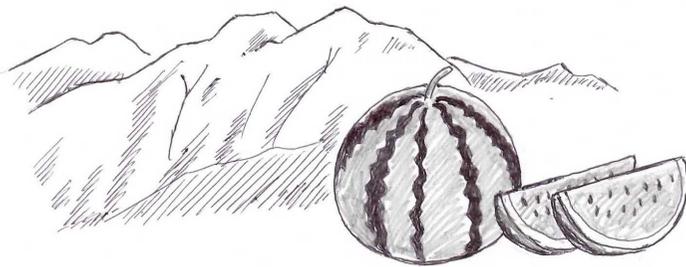
二軒小屋から7時間程かかって、やっと千枚岳に着きました。明日登る赤石岳が前方にどっしりと構えて聳えていました。千枚岳から狭い登山道を通り、悪沢岳へ向かいます。この時は高山植物には全く興味がなかったせいか、ただ歩くだけでした。その後、高山植物の名前を知ってから数回この尾根道を通りましたが、こんなに沢山の花が咲いていたのかとびっくりしました。悪沢岳手前のゆるやかな丸山を通り、悪沢岳に着きました。大きな赤石岳を見ながら大休止。悪沢岳から大きく下り、中岳に向かうと、今日の宿泊地荒川小屋が見えてきました。

中岳山頂付近の広い尾根でひと休み。その時、赤石岳で食べる予定で持ってきた大きなスイカが現れました。今日登ってきたあのつらいマンノ登りのように、普通つらい登りを考えた時、一番最初にカットするのがスイカでしょう。しかし、そのスイカを3000米迄かつぎ上げるファイトは大したもの。若さからでしょうか。しかし、一人二切ずつに分けて、ここで食べることになりました。数十年の山行で初めてであり、

終わりでもありました。その後、山で食べた記憶は一度もありません。赤い実の部分はもちろん白い部分も食べて、ほんの数ミリ、緑の皮だけを残しました。この時のスイカのうまかったこと。一生忘れることはないのです。その後、毎年スイカを食べる時には、人には言いませんが、この時のスイカを思い出します。

その後、中岳より前岳に向かいました。前岳の大崩壊している斜面を見物し、荒川小屋に向かいます。前岳からの下り斜面は南ア一番のお花畑でした。花はたくさんありましたが、花の名前はわかりません。荒川小屋のテント場にテントを張り、今日の山行が終わりました。この場所から富士山が見えた様に思いますが、この頃はまだ富士山に余り興味がなかったのか、カメラを向けませんでした。

翌日は赤石岳に登り、百間堂に泊まり、聖岳に登って遠山川を下って山行を終える予定です。この後も大変な長い軌道歩きで木沢集落へ下山があるのですが、長くなるので次回、又書きます。



地 図

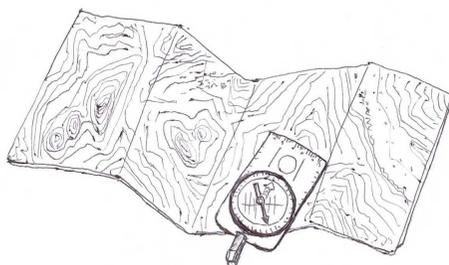
金井秀明

国土地理院発行の“5万分の1の地図”は、ずっと山の相棒でした。行きたい山の地図を手に入れては、地形図や等高線から未知のルートを想像して架空の登山をしてみます。そして実際に行ってから一番の楽しみは、歩いたルートを赤鉛筆でなぞっていくことでした。長い縦走をした後、地図を数枚に渡って、線を書き込んでいくときなどは本当に生き甲斐を感じるほどだったと思います。赤い線がたくさん引かれ、折り目が少々裂けたりして地図が薄汚れていくと、自分の山登りにも箔がついてきたと思えてうれいものでした。

しかし、いつの間にか5万分の1の地図は箱にしまわれ、気がつくとき昭文社の“山と高原地図”ばかり使うようになっていました。コースタイムも載っていて見やすいし、本当に便利です。一般ルートを歩いている限り、この地図で十分でしょう。

さらに、最近はスマホの地図アプリが便利なようです。忠さんが使っているのを見ましたが、GPSで現在地がはっきりわかるので安心感抜群です。これがあれば道に迷っての遭難事故が激減すると思います。スマホを自在に使いこなす若い登山者にはもう常識なのかもしれません。

しかし、アナログ人間の私は“5万分の1の地図”が捨てがたく、こんな文章を書いているからには久しぶりに昔の地図を見ようと思ったら、・・・ありません。よく考えてみたら、奥さんの本が増えてきて本棚を圧迫し私の本を減らせと言われて、地図のつまんだ箱を始末してしまったことを思い出しました。なんてことをしてしまったのだろうと今更思っても、どうしようもありません。まあ、こんなもんですね・・・



表紙のことば

金井秀明

東北の雄、飯豊連峰の東側の登山口にある大日杉小屋です。銀嶺では大人気の小屋で、毎年誰かが行ってるのではないのでしょうか。まだ木の香りがする比較的新しい小屋で、前にはくつろげるベンチのある広場があり、イワナが釣れる溪流もすぐそばを流れ、おまけに車ですぐそばまで行けるといい条件がそろった小屋です。おいしい酒を持ち込んで飯豊の豊かな山の幸を味わいながら、何度でもゆっくりと過ごしたいところです。



新人紹介

氏名：鈴木喜久枝
職業：主婦
生年月日：昭和27年6月2日
趣味：韓国ドラマ鑑賞
登山歴：10年くらい
行きたい山：雪のある山に行ってみたい
入会の動機：時々誘っていただいて、年に1～2回参加していましたが、もっと山に登りたいと思い再入会しました。

令和元年度 役員

会長 古川進一
副会長 金井秀明
リーダー 宮崎睦 遠藤博昭 原田裕之
高橋恵美子
事務局 金井秀明
会計 内田章子 永井陸夫
庶務連絡 佐藤健一
装備 金井秀明
会報編集 金井秀明 高橋忠 小山田泰幸
内田章子 高橋恵美子 高橋充夫

ふみあと



平成30年

10月 7～ 8日	奥日光 (千手が浜)	宮崎
14～16日	尾瀬沼	宮崎
20～21日	小檜山	宮崎、他8名
26～28日	明神ヶ岳 (きのこ山行)	遠藤、佐藤、高橋忠、宮崎 内田、佐久間
28日	雪入山	高橋恵、他1名
11月 9～10日	熊鷹山	宮崎
15～16日	古峰ヶ原	宮崎、他1名
20日	鳴神山	鈴木、高橋恵
23日	生瀬富士・月居山	宮崎
28～30日	若穂太郎山 (忘年山行)	遠藤、高橋恵、佐藤、内田 宮崎、高橋忠、佐久間
12月 15日	小町山	宮崎
16日	岩殿山	高橋恵、他1名
21日	明山	宮崎

平成31年

1月 4日	鳥場山	宮崎
18日	鋸山	宮崎、他1名
24日	スッカン沢	宮崎、遠藤、内田、高橋忠 佐久間
28日	高尾山	鈴木、高橋恵
2月 3～ 4日	奥日光 (戦場ヶ原)	宮崎、他1名
7～ 9日	イエローフォール	遠藤、宮崎、内田、高橋忠 佐久間
17日	長瀨アルプス	高橋恵、他1名
21～22日	宝台樹 (スキー合宿)	永井、佐藤、高橋充、関
3月 29日	三轟山	鈴木、高橋恵
31～ 2日	栗駒山 山スキー	宮崎、遠藤、高橋忠、内田

4月 4～ 5日	花瓶山・	宮崎、他1名
11～12日	横根山・	宮崎
12日	雪入山・	鈴木、高橋恵
28～ 2日	栗駒山・五葉山・	遠藤、高橋恵、宮崎、佐藤 内田、高橋忠、鈴木

令和元年

5月 5～ 7日	燧ヶ岳・	宮崎
6日	三つ峠山・	佐藤健、他
23～24日	燕岳・	佐藤健、他3名
26～28日	長井葉山・	金井、他3名
6月 6～8日	船形山 (山菜山行)・	遠藤、高橋恵、宮崎、佐藤 内田、高橋忠、鈴木
13～14日	奥日光 (高山)・	宮崎、他1名
26～27日	台倉高山・	宮崎
25日	湯の丸山・	内田、鈴木、高橋恵
25～28日	栗子 滑谷沢・	遠藤、佐藤、高橋忠
7月 2～ 3日	沼田街道・	宮崎
15日	霧降高原・	鈴木、高橋恵
26～27日	立山 雄山・	佐藤健、他
31～ 3日	荒雄岳・薬菜山 (夏山合宿)・	遠藤、宮崎、佐藤、内田 高橋忠
8月 5～6日	小菅川本谷・	金井、高橋恵、佐藤、鈴木 高橋忠
25～26日	甲子 白水沢	金井、他2名
9月 3～ 5日	白川 大日杉・	遠藤、内田、佐久間、高橋忠
12～13日	切込湖・刈込湖・	鈴木、高橋恵
27～28日	涸沢・	佐藤健、他2名
29～ 1日	御嶽山・	高橋恵、鈴木
10月 8～10日	太平山・	遠藤、内田、宮崎、佐久間 高橋忠
20～21日	那須朝日岳・	高橋恵、鈴木



編集後記

今年も昨年同様、月1回のペース。70才の大台に到達し、体力も著しく落ちてきた。三千m級はもちろん、二千m級もなかなか登れず、低い山をゆったりと楽しむ山行になってきました。

高橋 忠

ランニングをはじめました。体力増進はもちろん、長年悩まされてきた腰痛がかなり良くなってきたのはありがたい。さんまマラソン完走できたかなあ・・・？

金井 秀明

山を追いかけて、1年があつという間に過ぎた気がします。
それは幸せなことかも知れません。

内田 章子

父が亡くなって、家のことをどれだけ自分が受け持つか、まだ生活のパターンが固定できていません。自由のようで自由でない。譲れない範囲をはっきりさせなければいけませんね。

小山田 泰幸

月例会での山行報告を聞くだけの一年になってしまいました。来年こそは体調を整えて山行に参加したいと思います。

高橋 充夫



「ぎんれい75号」

発行 〒288-0837

千葉県銚子市長塚町3-148

銀嶺山岳会

TEL. 0479(22)7698

<http://ginrei288.xsrv.jp/>

編集 編集委員

発行月日 令和元年12月14日

印刷 フルノライフベスト株式会社

* ホームページアドレス変わりました。



2019.12.14 発行